

平成29年度訪日外国人観光客向け土産品開発事業

背景・目的

震災による被害が大きかった宮城県沿岸部においては、外国人旅行者の受入体制や海外に発信できる観光資源が現状不十分なところが多く、底上げを図る必要がある。本事業では、地域の事業者が連携して行う訪日外国人観光客向け土産品の商品開発を支援し、インバウンド対応可能な地域資源の増加を目指す。

実施した主な取組の内容

【取組内容】

宮城県塩竈市において、訪日外国人観光客・首都圏他の大消費圏向けの商品開発実績・販路のある専門家等をアドバイザーとして迎え、意欲のある事業者が連携した土産品の商品開発を支援。



【詳細】

- 土産品開発のための会議を5回開催。
- アドバイザー・バイヤー・デザイナーからの適切な助言をいただきながら、統一したイメージでの、ブランドネーム・ロゴのデザイン、商品のパッケージ製作を行った。
- 外部、特に訪日外国人観光客の視点を取り入れるため、観光・購買経験のある外国人3名から感想・意見をいただきながら、商品開発を行った。



得られた成果

- 参画者全員で考えた塩竈地域の“魅力”や“アイデンティティ”を表現しうる、土産品の新たな試作パッケージを製作。
- 塩釜地域における土産品商品開発のノウハウの蓄積。

今後に向けた活動の見通し・課題

- テストマーケティング等の検証を経て、販路を拡大。
- 被災地沿岸部の新しいモデルケースとして、他エリアにも広がるような仕組みを構築する必要。